

# 夏祭りの苦い思い出

高学年 1 - 4】

## ワークシートへの書きこみを生かす工夫

(1) **主題名** 誠意をもって [ 1 - 4 ] 関連項目 [ 4 - 2 ]

(2) **ねらい** 自分の言った言葉に誠実に行動し、明るい心で生活しようとする心を育てる。

(3) **資料名** 「夏祭りの苦い思い出」

(4) **授業の展開例**

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 祭りの思い出を発表する。	<p>あなたの祭りの思い出を聞かせてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと一緒に屋台で買ったおかしを食べながら歩いた。</li> </ul>	祭りの写真を見ることで、資料への関心を高める。
展開	2 資料「夏祭りの苦い思い出」を聞き、話し合う。	<p>かき氷のカップを落としたとき、前田さんはどんなことを考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どちらなくてはいけない。</li> <li>どううとも思ったけど、人混みの中では難しいから仕方ない。</li> <li>友だちとはぐれてしまうことが心配だから、そのままにして行こう。</li> <li>散乱しているカップを見たら、許されるような気がした。</li> </ul> <p>つよし君に会って落ち着かなくなったりとき、前田さんは何を考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1学期に宣言したのに、うそをついたことになった。</li> <li>宣言した後のつよし君の言葉が思い出され、恥ずかしく思った。</li> <li>ごみ箱に捨てようという気持ちはあったのに、結局道に捨ててしまったことを後悔している。</li> </ul>	<p>児童が発表しやすいように、まず、ワークシート等に自分の考えを記入する時間をとる。</p> <p>発表の際、その前田さんについて自分はどのように感じたかを発表者に聞いてみる。</p> <p>はじめて何事にも前向きな前田さんが、言ったことを実行しなかった後悔の気持ちを押さえる。</p>
開拓	3 ごみを捨てるにもどった主人公の気持ちを考える。	<p>つよし君の行動を見習ってごみを捨てるにもどった前田さんが、この日学んだことは何でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今度からは言ったことを守りたい。</li> <li>きちんとやったら、気持ちがいいものだ。</li> </ul>	ワークシートの後半に自分の思いを書けるようにしておく。
	4 自分たちの生活を振り返って話し合う。	<p>言ったことを実行しないで、後悔したことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洗濯物を入れるお手伝いをする約束をしていたのに、ついやり忘れ、雨でぬれた洗濯物を取り入れる母を見ると、情けなかった。</li> </ul>	後悔したときの気持ちや次はどうしようと考えたかを聞いて、児童の感じた思いが具体的に伝わるようにする。
終末	5 教師の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>言ったことをやりとげると気持ちがいいなあ。</li> </ul>	誠実に行動してさわやかな気持ちになった経験談を話す。

## 夏祭りの苦い思い出

「ごみをポイ捨てるなんて、絶対にしてはいけないことだと思います。わたしも環境を守るために、どんなときだってごみをポイ捨てしません。」

わたしは、精一杯の声を出してせんげんしました。わたしたちの学年では、総合的な学習の時間に「環境」について学習をしています。今日は、一学期に調べてきたことをみんなの前で発表する時間です。

「さすが、前田さん。どんなときだってポイ捨てしないだなんて、前田ちゃんらしいねえ。」つよし君のつぶやきが教室中にひびきわたりました。その言葉にわたしは、少しばかしさを感じながらも、うれしく思いました。

バンバンバーン。

祭りをつげる花火の音。今日は夏祭りの日です。わたしは、友だち五人とゆかたを着て屋台めぐりをして歩きました。

「ねえ。かき氷を食べようや。」

みんなで、かき氷をほおばりながら、人混みの中をかき分けるように歩いていくうちに、シロップが指について、べとべとしてきました。（ビニーカにごみ箱はないかな。）と、キヨロキヨロしながら歩くと、どのごみ箱もごみであふれています。わたしの足下にも、かき氷のカップが散乱しています。わたしは友だちとはぐれるのを気にしながらも、なんとかごみ箱に近づこうとしました。しかし、後ろから来た人にぶつかって、カップを落としてしまいました。捨おうと思えば捨えないことはなかつたけど、わたしは、そのまま友だちを追い、その場を立ち去りました。やつと友だちを見つけ、かけ寄つていくとつよし君たちもいっしょにいました。

「やあ、前田さん。元気？」

つよし君の声に、わたしの心は急にくもり、落ち着かなくなりました。しばらくして、つよし君が、「みんなでいっしょに回ろう。あつ、ちょっとまつてて。これを捨ててくれるから。」

「としました。わたしは、ちょっとまつててね。」

と言い、さきほどカップを落としたところに急いでもらいました。そして、そこらに散らばっていたごみを両手いっぱいに拾い集め、ごみ箱に捨てにいきました。

わたしの耳に祭ばやしの音が心地よく響いてきました。

# 活用に生かすための実践報告

## 「夏祭りの苦い思い出」

### 1 主題の設定

・総合的な学習の時間や各教科の学習の中で、調べたことをもとに、自分の考えを発表する活動が、以前に比べ多くなった。こうした活動を通して問題意識が深まっていく。しかし、学んだことが、日常生活の中で果たしてどれだけ生かされているかは疑問である。また、自分がやると決めたことや約束を果たさないこともある。心の中ではわかっていても、つい「まあ、いいか。」と妥協してしまう、そんな弱さは誰にでもある。

・そこで、自分の良心で判断することや物事に誠実に取り組むことの大切さについて、この資料を通して考えさせたい。

・資料の題名や内容から、2学期以降に実施するのが好ましいと思う。

### 2 指導過程の工夫

・「どううと思えばとれないことはなかったけど・・・」に続く主人公の心の葛藤をワークシートに十分時間をとって書かせることで、主人公である前田さんの心情と自分の思いを重ねて考えることができる。

・絵カードを使って視覚的に理解しやすい板書をするとよい。

・中心発問のところは、なるべく全員が学んだことを発表できるようにし、その発言をつなげながら、ねらいに沿った価値に迫っていくとよい。

・児童の振り返りは、失敗談の方が多いと思われる。そこで、児童が前向きにがんばろうと思えるように教師の話を工夫する。

### 3 発問の工夫

・児童の発言はカップを拾わなくては、という思いより、何かと理由をつけて言い訳をする方が多い。よって、心が落ち着かなくなつた前田さんの心境をしっかり考えさせ、宣言したこと振り返らせてることで、自分の言った言葉に誠実に行動する大切さに気付か

せたい。

・教師の説話では、誠実に行動できたときの爽快感が感じ取れるような自己の体験談やよりよく生きようとした人のエピソード等を紹介し、児童の今後の実践につなげができるようにする。

### 4 児童の反応(授業後の感想)

・ワークシートには、「ああ、どうしよう。取らないと。ポイ捨てしたらだめだから。でも、友だちが行っちゃうよ。はぐれたら困る。友だちが心配するし迷惑もかけてしまう。楽しい祭りが台無しだ。でも、周りにもたくさん落ちているから、1個ぐらいならいいか。だれも見ていないし。それに、人とぶつかって落ちたんだもの。でも、あの時、みんなの前で宣言したのに捨ててもいいのか・・・」のように前田さんの心の葛藤を多くの児童が書いた。そして、「取ればよかった。だって宣言したんだもん。」と前田さんの後悔の気持ちも書いていた。話合いをする中で「やはり、自分の言ったことは、守っていきたい。」と学んだようである。

### 5 実践者から一言

・お祭りに行くと、あふれるほどのごみの山にため息をついてしまう。教室を見渡せば、床にごみが落ちていても進んでごみを拾おうとする児童は少ない。学習後の感想が生活に生かされていない現状を見て作成したのがこの資料である。資料自体は児童にとって分かりやすく、主人公になりきって心の葛藤を感じさせることができる。しかし、葛藤場面の発表に時間をとりすぎると、本時の道徳的価値に迫る時間が少なくなるので、時間配分には気を付けてほしい。

(温品小学校 神原久美子)